

「総合的な学習の時間」における課題研究の改善と評価の方法

3年次 倉井庸維

総合学科に改編以来実践されてきた「課題研究」を、平成15年度は、先取りをして「総合的な学習の時間」の中で実施した。「課題研究」は、総合学科においては、「産業社会と人間」に始まり、「課題研究」に終わる教育課程上大変重要な科目である。その科目の実践に対して、生徒の意欲・態度、研究の質、評価方法の3つが、問題点として挙げられ、その問題を解決するために進路との関連づけの強化、研究方法論の指導、目標の明確化と評価の観点の提示がなされた。

キーワード：総合的な学習の時間、課題研究、評価

1. はじめに（問題の所在と改善の方法）

本校では、本年度1年次は、月曜日7時限目¹⁾、2年次は、木曜日6時限目、3年次は木曜日5、6時限目を「総合的な学習の時間」としている。1年次は、読書とその本の紹介を、2年次は、異文化理解をテーマに韓国への校外学習の準備を兼ねた個人研究、語学学習、韓国留学生による講話等を行っている。3年次は、進路を考慮し、各自興味関心の高い題材をテーマに選び1年間研究を進め、論文としてまとめている。

3年次における「総合的な学習の時間」は、これまでの総合学科における原則履修科目「課題研究」を踏襲するものであり、数年間の実践を経ながら今年度に至っている。本稿では、この「課題研究」（以後、「総合的な学習の時間」における実践を「課題研究」とする。）についての問題点とその改善方法、評価の方法について報告する。

(1) 問題の所在

今年度の「課題研究」を実施する上での問題点として、以下の3点を挙げられた。²⁾

- ①生徒の意欲・態度
- ②研究の質
- ③評価の方法

その理由として、

①の「生徒の意欲・態度」に関する問題点は、通常の一斉授業においては見過ごされがちであった個人の活動が、「課題研究」においてはクローズアップされることにより、生徒の学習意欲や態度が明確に教員に把握されることも原因として挙げられるが、課題研究の時間においては、主体的かつ自主的に学習に取り組むことが求められるために、教師による強制が弱くなり、そのことが

逆に「息抜きの時間」となる生徒や意欲的に取り組むことのできない生徒を生み出すことにもなっているようである。

2番目の生徒による「研究の質」に関する問題については、これまでの数年の実践を経てきたことにより、より質の高い研究、その成果を示す論文が求められるが、残念ながら単に調べたことをまとめたままの論文も少なくないことによるものである。

③の「評価の方法」は、今年度の一番の問題である。昨年度までの「課題研究」として評定値を付けていたが、「総合的な学習の時間」の中で「課題研究」を行うことになり、従来の評定値ではなく、文章等による評価を行うことになり、どのような基準で評価するかが問題となる。

本稿では、この3つの問題点を改善するための方法と、実践を通じた経過を報告することを目的とする。

(2) 改善の方法

上記問題を解決するための方法として、以下のように行うことにした。

①の問題に対して、生徒が意欲を持って取り組むことができないのは、課題設定が十分ではないことにあると考え、まず、自分の進路に関連したテーマを設定するように指導する。進路に関連したテーマ設定は、昨年から取り入れられていたが、より一層強化することにし、具体的なテーマ例を示しながらオリエンテーションを行うことによって、生徒のテーマ設定への支援を行う。

②の問題に関しては、研究方法論を示す必要があると考え、研究方法の概論と研究テーマごとの成功事例を示すこと等のオリエンテーションを行うとともに、論文作成の文献（例えば、山内、2001）を紹介する。また、各時間において、生徒の研究の進捗状況を把握するととも

に生徒間の情報交換を促進するために、ゼミ形式の発表を中心とした授業を取り入れる。

③の問題に関して、評価は目標と一体になって行われるものであり、目標があり、その目標を実現するために実践を行い、目標に照らし合わせてどの程度達成されたのか、評価することができると考え、目標を明確化し、その目標を細分化し、それぞれの評価の観点を示す。

2. 実践状況

上記問題①と②を解決するために、これまでになされてきた実践について報告する。なお、問題③については、次の章に記述する。

(1) 2年次12月～3月

2年次の12月から「課題研究」に対するオリエンテーションを行い、各自の進路に興味関心を加味した研究テーマを2月下旬に提出させた。そのテーマをもとに、テーマ毎におよそ10名程度を1班として班分けを行った。指導教官は、普通教科から各1名、専門教科（農業、工業、商業、家庭）から各2名の教諭が出て、指導に当たる。3月下旬に所属班を発表し、指導教官も含めて班毎に集まり、各自の研究テーマを紹介する会を開いた。

(2) 3年次4月～7月

4月になり、研究の進め方に対する全体指導と分野ごとの成功事例の紹介を行い、5月から各班毎に研究活動に入った。今年度からゼミ形式の授業を始めた。(資料1)そこでは、発表者は、各回3人ずつでA4版1枚のレジュメを用意することとし、発表は、およそ1ヶ月に1回廻ってきた。当初、発表の準備が間に合わずできない生徒も見られたが、回数を重ねるごとに要領を得、発表と質疑応答、その後の指導教官からの指導をスムーズに運ぶようになった。生徒にとっては、次回のゼミ発表が1つの目標になり、それに向けて準備をすることになり、ペースメーカーになっていたようだ。

また、生徒には、1人ずつファイルを持たせ、収集した資料やゼミのレジュメをそこに閉じさせるとともに、毎回終了時に活動報告としてA4版1枚の「課題研究の記録」を提出させた。このファイルを用いた点は、1昨年度から始まったものであり、ポートフォリオによる評価を念頭に置いたものである(加藤・安藤、1998)。指導教官は、それに1週間以内に目を通して、コメントを付けて返却している。

6月第4週目には中間発表会を行った。生徒は、事前

に各自A4版の所定の用紙(資料2)にタイトル、研究目的、研究方法、研究の進捗状況、今後の計画、参考文献を記入提出し、その内容を中心に一人5分以内で発表した。発表会は、2班合同(およそ20名前後)で行われ、異なる研究テーマの班を組み合わせた。これは、お互いに異分野の研究に触れ、刺激を受けることを目的としていた。専門的な内容であるために理解できない点もあったが、刺激を受ける点が多く、好評であった。また、この発表会では、生徒の1つ1つの発表に簡単なコメントと3段階の評価が付けられる評価シートを配布し、生徒はその評価シートに記入しながら発表を聞き、評価シートは発表終了後、回収した。生徒の評価シートを見ると、概ね評価は、生徒間で差がなく、妥当な評価をしているといえた。

7月には、1学期のまとめとしてそれまでの研究活動を振り返ることを目的に、生徒が事前に記入してきた自己評価票に基づき面接を行い、生徒の自己評価と指導教官の評価との調整を図った。

夏休み中は、各自研究を進めるが、宿題として各自の研究に関連のある文献を読み、その感想文を提出することを全員に課した。提出率は、90%弱であった。

(3) 9月以降

10月上旬に2回目の中間発表会が行われる。ここでは、調査や実践、体験の内容を中心とした発表がなされる。発表の形式は、第1回目と同様である。12月11日には分野別最終発表会が行われ各分野の優秀な発表が選ばれ、12月18日に学年発表会で紹介される。この段階で生徒はすべて論文の第1版を完成させ、指導教官に提出する。その指導を受けて1月中に修正をし、月末に最終論文として提出することになる。

(4) 筑坂アワード

「課題研究」は、総合学科の学習活動のまとめとして位置付けられていることは言うまでもないが、その研究で優れた成果を上げた生徒を表彰しようとする制度が、検討され、今年度から実施されることとなった。選考の方法は、12月に行われる分野別発表会、さらには学年発表会において、生徒と教員が記入した評価シートの評価を点数化し、その合計点の上位者を選出する方法でなされる。

その上位6名が、研究発表会で発表し、さらにその中で最もよかった研究2つに対して、最優秀賞と優秀賞を授与することにしている。この表彰制度は、今後

継承されるとともに、優秀な研究を行っていかうとする生徒にとっては、励みになると思われる。

3. 評価について

(1) 目標について

「総合的な学習の時間」の目標は、「自ら学び、自ら考える」力、すなわち、「生きる力」の育成にあるが、その点を踏まえて「課題研究」では以下のことを目標として設定した。

進路に沿った研究テーマを設定し、資料やデータの収集と分析を行い、その結果と考察を論文にまとめ、プレゼンテーションを行うことができる。

これらの目標に沿って各学期毎に下位目標を定め、年度当初に生徒に示し指導を行った。(資料3参照)

(2) 評価の方法について

評価は、各学期ごとに以下の内容、方法で行われた。

①内容

- ア 各班毎にゼミ形式でなされる1、2回の発表のレジュメと、発表の様子。
- イ 各回の活動状況と、各回毎に提出される「課題研究の記録」の記載内容。
- ウ 発表会のレジュメと、発表の様子、他の生徒の評価シート。
- エ 5つの評価項目からなる自己評価票。
- オ 提出された論文(3学期のみ)

②方法

- ア ゼミのレジュメと発表に関しては5段階、「課題研究の記録」に関しては3段階で評価を行い、その後、生徒の提出した自己評価票をもとに、面接をして3段階で評価を行う。
- イ 発表会における評価シートの生徒コメントと評価の点数を参考にしながら、発表に関して3段階の評価をする。
- ウ 通常の活動である評価アと発表会の評価イを合わせて、3段階の評価を決める。
- エ 提出された論文を観点毎に評価し、総合的に3段階を決める(3学期のみ)

なお、生徒へは、各学期毎に総合的された評価3段階を通知票に記載することによって伝えている。

4. 今後の課題

「総合的な学習の時間」において、各自の興味・関心に応じた課題を設定し、1年間以上かけて研究していく「課題研究」それ自体は、総合学科にとって珍しいことではない。しかし、進路と関連付けながら、研究の質的向上を図り、さらには、生涯学習への基礎を築いていくことを目的とした場合、生徒に対して単に「研究すること促す」だけでは効果が上がらない。「いかに研究をしたらよいのか。」具体的に示す、課題研究の基礎にあたる研究方法論の学習やスキルの習得の時間を作る必要があると思われる。今年度も、4～5月にはオリエンテーションを行い指導してきたが、また、十分であったとも思えない。宇都宮大学附属中学校の総合学習教科「学び方」では1年生の後期から週1時間「学び方」の基礎として、図書文献の読み方から作文・レポートの作成の仕方、情報の収集や整理の仕方、発表や議論までをコースとして学習していく実践(柴田、1998)を行っている。こうした実践を参考にしながら、今後も改善をしていきたいと考えている。

<註>

- 1) 今年度より、45分7時限3学期制に移行した。ただし、毎日7時限めがあるのは、1年次のみである。
- 2) 本校では、課題研究担当者16名で、課題研究部会を作り、連絡・調整を行っている。そこでの第1回会合において、問題点として出されたことである。

<参考文献>

- 加藤幸次・安藤輝次：総合学習のためのポートフォリオ評価、黎明書房、1999
- 柴田義松：学び方の基礎・基本と総合的学習、明治図、1998
- 山内志朗：ぎりぎり合格への論文マニュアル、平凡社、2001

※本稿は、平成15年度全国総合学科研究大会において発表された原稿を加筆・修正したものである。

(資料1)

平成15年4月9日
課題研究部会資料

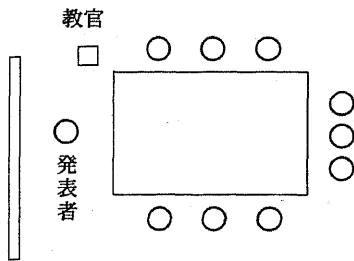
課題研究授業方式

～ゼミ形式による生徒の発表を中心とした授業展開～

各学期、生徒当たり2回以上発表を行う。

○授業の方法

各回に3名の生徒が、15分程度これまでに学習した内容を発表し、質疑応答と教官がコメントを付ける。



○発表用資料について

発表者は、A4版1枚で程度ワープロ打ちした内容を教官に提出する。教官は、それをB5版に縮小コピーし、生徒の人数分印刷し、生徒に返す。

形式は、以下のようにする。1ページ目

年 月 日
課題研究授業発表
タイトル
3年○組○番氏名
発表内容

○発表内容

発表内容は、テーマに関する進捗状況を報告する。

(1) 主要参考文献が決まっている場合

参考文献が決まっている生徒の場合は、本のタイトル、著者、出版社、出版年、読んだページを書き、それらを要約して発表する。また、自分なりのコメントや感想があれば、それをつけることができればよりよい。

また、この段階で、引用と自分の意見の違いを区別するように、指導する。引用の場合は、必ず引用符をつけるように指導する。

※1学期は、ほとんどがこれになると思われる。

(2) 調査研究を行う場合

調査研究を行う場合は、調査方法、調査実施計画、ならびにアンケートの項目、アンケートを採った後の集計と分析方法(グラフや表の表現や、平均、標準偏差等の統計的分析)を発表する。

※2学期には、これが多くなると思う。調査前と後で、2度発表ができるとうい。

(3) 執筆にかかる場合

章構成を作成させ、それぞれの章にどのような内容を書くつもりであるのかを発表する

※2学期後半から3学期にかけて。

(資料2)

平成15年度 課題研究1学期中間発表会 6月26日

会 場		氏名	3年 組 () 番
		指導教官	
題 名			
研究目的			
研究方法			
研究の進捗状況の概要			
今後の課題と実施計画			
主要参考文献			

(資料3)

課題研究の目標と評価の観点

○学期ごとの目標

I. 1学期の目標（理論的な枠組みの構築）【6月28日まで(8回)】

1. 進路と関連した価値ある研究テーマを設定すること。
2. 先行研究を十分に調べ、そこから研究目的、研究方法を明確に記述すること。
3. 夏休み以降の研究に対して、実現可能な計画を立てること。

II. 2学期の目標（調査や実験、実践によるデータの収集と考察、章構成）

【10月9日まで(6回)】

1. 研究計画に基づいて、調査、実験等を行うこと。
2. データのまとめと分析を、表やグラフを用いて行うこと。
3. 分析結果をもとに考察すること。
4. 章構成を行うこと。

III. 3学期の目標（論文、報告書の作成と完成）【12月18日まで(8回)】

1. 論文あるいは報告書を完成すること。
2. データ提供者へ結果を報告すること。
3. 学年発表会において、わかりやすく研究成果を発表すること。
4. 課題研究発表会(2月12日)において、わかりやすく研究成果を発表すること。

○評価の観点

1. 研究テーマについて

- 1-1 研究テーマが設定できたか。
- 1-2 研究テーマは、1年間をかけて研究するのに値するテーマであるか。
- 1-3 その研究テーマを研究することによって、研究者は社会的に有意義な知識を獲得されると思われるか。
- 1-4 その研究テーマは、社会的に価値のあるテーマと認められるか。

注 「価値ある」とは、社会的に認知された内容であり、過去に複数の人によって研究された内容であること。

例えば「夏目漱石」や「三島由紀夫」は、社会的に評価されているので、研究の対象にしても問題はないが、現代作家の場合、果たして10～20年後どのように評価されるかわからないの

で、ある程度時間経過を経て社会的に評価された研究対象を選ぶべきであると考ええる。

2. 研究テーマと進路について

- 2-1 研究テーマは、進路と関連しているか。
- 2-2 研究テーマは、進路とどのように関連しているか。また、その関連性を明確に説明できるか。

3. 先行研究について

- 3-1 主要参考文献が、挙げられているか。
- 3-2 主要参考文献は、参考文献として挙げるのに相応しい文献か。または、読むに値する優れた内容の文献であるか。
- 3-3 参考文献を十分読み込んでいるか。

4. 研究目的について

- 4-1 研究目的が記述されているか。研究目的は、明確であり、目的から結論の形式が予想されるか。
- 4-2 研究目的が、単に「調べること」や「知ること」で終わっていないか。

5. 研究方法について

- 5-1 研究方法についての記述があるか。
- 5-2 具体的な方法が記述されているか。
- 5-3 その方法に従えば、一定の結論へ導くことができると思われるか。

6. 研究計画について

- 6-1 研究計画を具体的にかつ詳細に立てられたか。
- 6-2 研究計画には、締め切り日が設定されているか。
- 6-3 その計画は、実現可能であるか。

7. 調査研究の計画の実施について

7-1 計画を綿密に立てたか。調査研究が終われば、論文あるいは報告書が作成されるか。

(※は、該当しているもののみである。)

※7-2 アンケートやインタビュー調査を実施する場合

- 7-2-1 母集団と標本は、何か。
- 7-2-2 質問項目の表現は、わかりやすいか。
- 7-2-3 質問項目は、研究の目的に沿ったデータを得ることができるものか。
- 7-2-4 質問項目の数は、適当であるか。

- 7-2-5 必要な数のデータを収集することができるか。
- 7-2-6 データの分析方法は、考えてあるか。
- 7-2-7 インタビュー対象者は、複数いるか

※7-3 実験や実践を行う場合

- 7-3-1 実験や実践に必要な道具、場所は、すべてそろっているか。また、それらは使用可能であるか。
- 7-3-2 実験や実践は、研究目的に添ったものであるか。その実験を行えば、必要なデータを入手することができるか。
- 7-3-3 その実験や実践によって、仮説を検証することができるか。
- 7-3-4 データの分析方法は、定められているか。
- 7-3-5 実験や実践が、成功しなかった場合のことを考えているか。

※7-4 文献調査研究の場合

- 7-4-1 調査に入る前に、調査の視点あるいは研究者の立場を明確にしてあるか。
- 7-4-2 複数の文献が調査対象になっているか。

※7-5 作品制作の場合

- 7-5-1 理論に基づいて作品を制作することができたか。あるいは、作品と理論を対応づけることができるか。
- 7-5-2 これまでの作品に比べて、異なる点（オリジナリティ）を述べることができるか。

8. 結果のまとめと分析、考察について

- 8-1 分析やまとめのために表やグラフを使用しているか。
- 8-2 表やグラフを効果的に使用しているか。
- 8-3 分析結果から、どのようなことが考察されたか。

9. 章構成について

- 9-1 章構成ができているか。
- 9-2 章構成は、章、項、節があり、章構成から論文の内容が想像できるか。
- 9-3 章構成は、論理的であるか。

10. 論文について

- 10-1 論文は、「である」調で書かれているか。
- 10-2 段落は、1文字下げられて始まっているか。
- 10-3 目次は、あるか。

- 10-4 所定の書式（例 1ページ40文字×40行等）であるか。所定のページ数(20ページ)を超えているか。
- 10-5 参考文献は、巻末に載っているか。
- 10-6 自分の意見と他人の意見を区別しているか。
- 10-7 著作権法に違反していないか。
- 10-8 誤字、脱字は、ないか。
- 10-9 文章は、論理的な展開をしているか。